

〔科目名〕 経営情報論	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 選択
〔担当者〕 古賀広志 KOGA Hiroshi	〔オフィス・アワー〕 時間: 集中講義なので講義間の休憩時間に 場所: 教室で対応します	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 <p>本講義では、経営情報論研究において現在主流となっている「社会構成主義・社会物質性」の視点を採用し、新しい経営情報論の考え方について概説する。加えて、現在急速に進行しつつあるDX(Digital Transformation)環境と呼ばれる高度で先進的なデジタルネットワーク環境の活用について概説する。さらに、情報社会ならびに情報倫理の議論を、明確に経営情報論の理論体系の中に位置づけることで、ビジネスの世界における経営情報の考え方を包括的に説明していく。</p>		
〔授業科目群〕・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>企業活動を題材とする講義科目の中で、企業活動を情報とシステムの視点から捉える応用科目に位置づけられる。情報化は現代企業の重要課題の1つであることから、たとえば「ITパスポート試験」の基礎知識の習得、あるいは『情報通信白書』などを通読するための基礎知識を習得することは、将来のキャリア形成においても無視できないと思われる。本講義で学修した内容は「すぐに役立つノウハウ集」ではないが、これからの企業活動を理解する上で有益なヒントを与えてくれると思われる。</p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <p>中間目標:情報通信技術(ICT)を使いこなすために、経営情報の考え方や経営情報システムの特徴を理解し、現状の分析、システム構築方法論などを理解してもらうこと</p> <p>最終目標:情報通信技術の開発と利用がもたらす社会・倫理・法的问题(ELSI:Ethical, Legal and Social Issues)に関する知見を体得し、責任ある開発とイノベーション(RRI:Responsible Research and Innovation)の立場を理解した人材となること。ネットワーク化されたビジネス環境ならびに社会に対して自律的な市民として主体的・積極的に参加できる人材に育てて欲しい。</p>		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 今回初めての講義なので、以前の「授業評価」はありません。		
〔教科書〕 遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣アルマ		
〔指定図書〕 必要に応じて紹介します。		
〔参考書〕 必要に応じて紹介します。		
〔前提科目〕 なし。		

<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 集中講義なので最終日に試験を行います。 講義時間中に小テスト(ミニツツペーパー)を課します。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕 ・スケールは、「学生便覧」の「成績評価」を参考にします。 ・良い成績を取りたい学生は、要求された課題について、講義内容に沿う形で論理的に解答することが望めます。</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 真面目に講義を聴いて、自分で考える努力を惜しまない人を望みます。</p>	
<p>〔実務経歴〕 なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): イントロダクション 内 容: 経営情報論の基礎 ・経営情報システムの歴史的展開(変遷)について簡単に触れる 教科書・指定図書: 遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第1章</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 経営情報論の基礎理論(組織論と戦略論の基礎) 内 容: 経営情報論理解の基礎となる組織関連の諸概念を ICT に関連づけて解説する。 とくに、組織論と戦略論について、情報の視点から概説する。 教科書・指定図書: 遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第2章</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 経営情報論の基礎理論(システム理論とネットワーク理論) 内 容: 経営情報論理解の基礎となる組織関連の諸概念を ICT に関連づけて解説する。 とくに、システム理論とネットワーク理論について、情報の視点から概説する。 教科書・指定図書: 遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第2章</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 経営情報システムとは何か 内 容: 会構成主義・社会-物質性の議論に基づく経営情報システムの定義、人間と人間、さらには人間と人工物との間の情動的相互作用の支援、経営情報システムの役割などを解説する。 教科書・指定図書: 遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第3章</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 情報通信技術の進展と組織 内 容: ICT の組織にとっての意味についてできる限り言及する。とくに、ICT の基本特性、ハードウェア、ソフトウェアの基礎、標準技術などを解説する。 教科書・指定図書: 遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第4章</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 情報通信技術の進展と組織(続き) 内 容: ICT の組織にとっての意味についてできる限り言及する。とくに、ICT の基本特性、ハードウェア、ソフトウェアの基礎、標準技術などを解説する(前回の続き)。 教科書・指定図書: 遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第4章</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 経営情報システム的设计・開発 内 容: アジャイル(状況適応)、DevOps, BizDevOps などクラウド環境を前提にしたシステム開発(持続的インテグレーション)・管理を中心に説明します。 教科書・指定図書: 遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第4章</p>

第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営情報システムの管理(デジタル・ガバナンス) 内 容:IT ガバナンス, 情報セキュリティの基礎的な考え方について説明します。</p> <p>教科書・指定図書:遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第4章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):情報通信技術を活用したビジネス・ノベーション 内 容:ICTによるビジネスイノベーション理論について解説します。</p> <p>教科書・指定図書:遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第4章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):ネット・ビジネス 内 容:電子商取引, サーチエコノミー/アテンションエコノミー, ソーシャルメディア, モバイルビジネスなどについて説明します。</p> <p>教科書・指定図書:遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第4章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):情報通信技術と組織コミュニケーション 内 容:社会構成主義ならびに社会物質性の議論を全面的に採用した形で, 組織コミュニケーションと情報技術の関係を説明します。</p> <p>教科書・指定図書:遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第9章</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):情報通信技術と組織コミュニケーション(続き) 内 容:データコミュニケーションについて, コンビニのレジシステムを中心に説明します。</p> <p>教科書・指定図書:遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第9章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):ビジネスインテリジェンスとナレッジマネジメント 内 容:ビジネスインテリジェンスとアナリティクス, 組織におけるナレッジの獲得・蓄積と管理, ナレッジマネジメントなどについて概説します。</p> <p>教科書・指定図書:遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第10章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):情報通信技術と社会・倫理 内 容:情報社会における組織と個人のアカウントビリティ, 監視社会とプライバシー保護, 個人番号制度などについて説明する。</p> <p>教科書・指定図書:遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第11章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):情報通信技術と社会・倫理(続き) 内 容:AI・ロボットの浸透と職業生活, ベーシックインカム, ICTと持続可能性などについて説明します。</p> <p>教科書・指定図書:遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第11章</p>
試験	